

第91期 中間期

証券コード 4471

株主のみなさまへ

平成26年4月1日～平成26年9月30日

CONTENTS

株主のみなさまへ	1
財務ハイライト	2
TOP INTERVIEW	3-4
セグメント別 営業の概況	5-8
財務諸表	9-10
TOPICS	11
製品紹介	12
会社概要／株式の概況	13-14



株主のみなさまへ

株主のみなさまには、平素より格別のご高配をたまり、厚くお礼申し上げます。当社第91期中間期(第2四半期累計期間:平成26年4月1日~平成26年9月30日)の連結業績の概要をここにご報告申し上げます。

当中間期におけるわが国経済は、輸出は横ばいで推移していますが、一部には消費税増税に伴う駆け込み需要の反動など、弱含みの動きが見られます。また、米国では景気持ち直しの動きがあるものの中国では生産の伸びがこのところ低下するなど、わが国を取り巻く環境は依然として先行き不透明な状況にあります。

化学業界におきましては、直近では、原燃料価格の下落、円安進行など事業を取りまく環境は変化していますが、当期間を通じては、原燃料価格の高値が継続するなど厳しい状況にありました。

このような環境下における当中間期の売上高は、自動車関連製品の拡販が進んだことなどにより、823億1千7百万円(前年同期比2.6%増)となりました。利益面では、原燃料価格が前年同期比高値となったことなどにより、営業利益は34億円(前年同期比17.2%減)、経常利益は38億3千4百万円(前年同期比24.1%減)、純利益は22億7千7百万円(前年同期比22.3%減)と、増収減益となりました。

中間配当金につきましては、昨年の中間配当金、および本年6月に実施いたしました期末配当金と同じく、1株当たり7円50銭とさせていただきます。

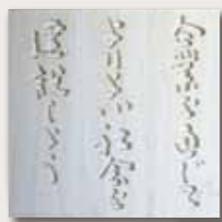
株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご支援、ご協力をたまりますようお願い申し上げます。

平成26年11月



代表取締役社長

佐藤 孝夫

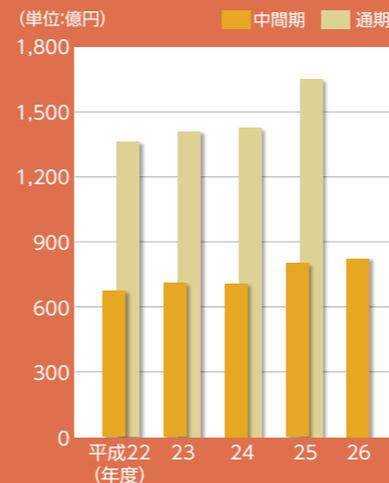


社是

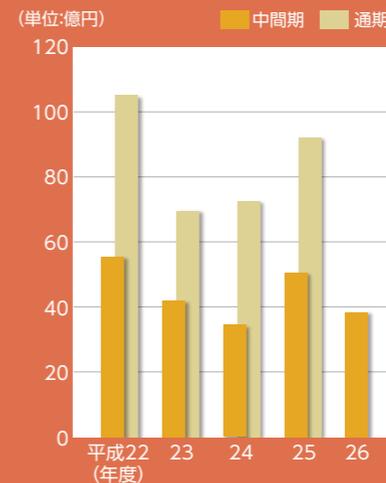
企業を通じて
よりよい社会を
建設しよう

財務ハイライト(連結)

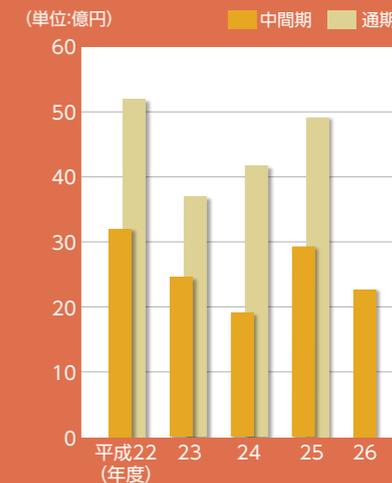
売上高の推移



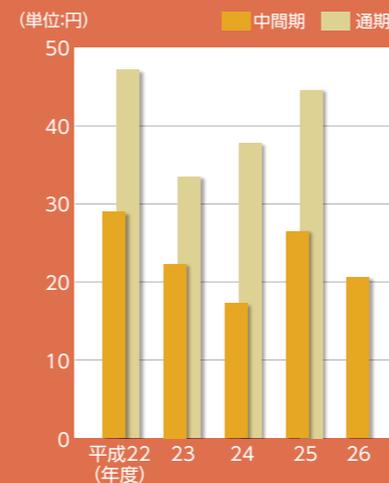
経常利益の推移



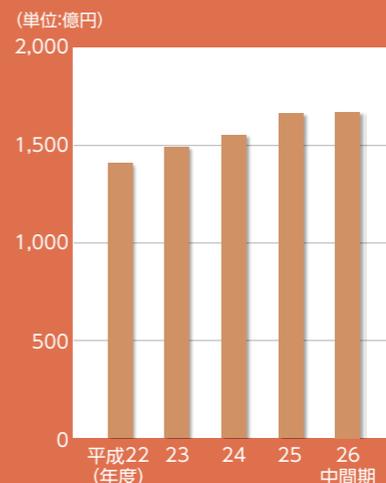
当期(中間期)純利益の推移



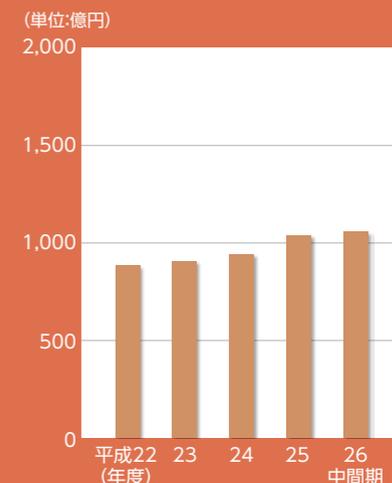
1株当たり当期(中間期)純利益の推移



総資産の推移



純資産の推移



新中期経営計画でのスタートダッシュに向けて、 着実に経営基盤の強化を実施しています。

Q 当中間期の業績について教えてください。

A 自動車関連製品の拡販が進みましたが、
原燃料価格の高値継続などにより
増収減益となりました。

自動車シートなどに使われるポリウレタンフォーム用原料や近年ニーズが高まっている潤滑油添加剤(P. 11をご

参照ください)、シートベルトやエアバッグの製造工程で使用される繊維用油剤(P. 12をご参照ください)などの自動車関連製品が好調に推移しましたが、原燃料価格が前年同期比で高値になったことなどにより、当中間期は増収減益となりました。

Q 今年度が最終年度となる
第8次中期経営計画の進捗状況と、
第9次中期経営計画への
準備状況を教えてください。

A 第9次中期経営計画に向け、企業体質の
改革と経営基盤の強化を行っております。

第8次中期経営計画の数値目標は、外部環境の変化などにより達成は困難となりましたが、「グローバル化の推進」や「人材育成」など目標達成に向け掲げた取り組みは着実に実行しております。現在は2015年度よりスタートする第9次中期経営計画に向け新たな戦略策定を進めな

がら、引き続き第8次中期経営計画で掲げた戦略的開発品*の開発促進やコストダウンの徹底などの施策を実行し、経営基盤の強化を行っております。

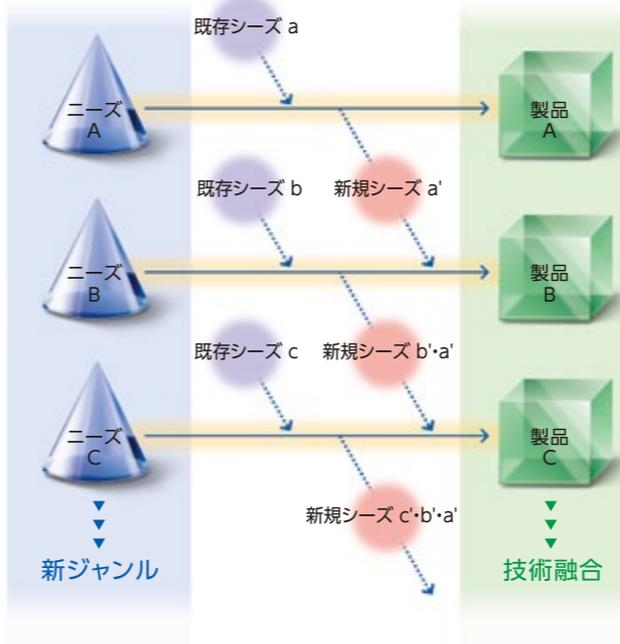
*戦略的開発品:収益力向上と事業領域拡大のため重点的に開発に注力していく製品

Q 三洋化成の根幹となる研究開発の
状況について教えてください。

A 「ニーシーズ指向」で新分野の開発に
注力しています。

当社は、ニーズに対応した製品開発を行い、その中で得られた技術に別の技術を融合させ、これをシーズ(種)

三洋化成の「ニーシーズ指向」



にしてさらに新しい別のニーズに対応する製品を開発する。これを連鎖反動的に行っていく「ニーシーズ指向」の研究開発を進めています。

例えば、当社の基盤アイテムであるポリウレタンフォーム用原料や潤滑油添加剤などでは、環境への配慮というニーズに対応し、当社独自技術によるシーズを組み合わせることで環境にやさしい製品を開発し、成果をあげています。

成長分野である医療やバイオの分野でも、界面活性剤の技術を応用したタンパク質の高効率生産プロセスの開発、ウレタン技術を応用した外科用止血材の販売開始など、当社の得意とする技術を新しい分野に適用することで研究成果が現れつつあります。今後は大学との共同研究なども積極的に行い、これらの分野を事業の柱とするべく注力していきます。

Q 最後に、株主のみなさまへ
一言お願いします。

A 「グローバルに、ユニークな
優良企業グループ」を目指して、
グループ一丸となって取り組んでいきます。

先行き不透明な厳しい状況が続きますが、顧客とともに価値ある製品を創出し、グローバルな市場で成長するという姿勢に変わりはありません。「グローバルに、ユニークな優良企業グループ」を目指し、第9次中期経営計画で新たなスタートダッシュがきれるようグループ一丸となって取り組んでいきます。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご支援、ご協力をたまわりますようお願い申し上げます。

各産業関連分野の売上高比率と主な製品

環境・住設産業 関連分野他

〈主な製品〉

- 廃水処理用高分子凝集剤
- ポリウレタン 家具・断熱材原料
- 反応性ホットメルト接着剤
- セメント用薬剤
- 建築シーラント用原料

生活・健康産業 関連分野

〈主な製品〉

- 洗剤・洗浄剤用界面活性剤
- ヘアケア製品用界面活性剤
- 高吸水性樹脂
- 人工腎臓用ポッティング材
- 医薬品原料
- 殺菌消毒剤・抗菌剤
- 外科用止血材

情報・電気電子産業 関連分野

〈主な製品〉

- 重合トナー中間体
- トナーバインダー
- アルミ電解コンデンサ用電解液
- 電気二重層キャパシタ用電解液
- UV・EB硬化樹脂
- 電子材料用粘着剤
- 電子部品製造工程用薬剤

プラスチック・ 繊維産業関連分野

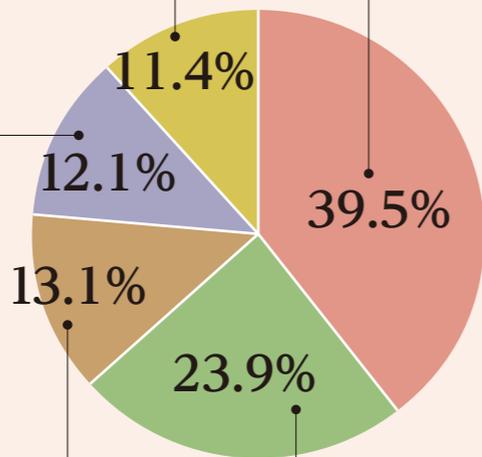
〈主な製品〉

- 永久帯電防止剤
- 顔料分散剤
- 樹脂改質剤
- 塗料用樹脂
- 繊維製造用薬剤
- 炭素繊維用薬剤
- ガラス繊維用薬剤
- 人工・合成皮革用ウレタン樹脂

石油・輸送機産業 関連分野

〈主な製品〉

- 自動車内装表皮材用ウレタンビーズ
- ポリウレタンフォーム用原料
- 潤滑油添加剤
- 燃料油添加剤
- デザインモデル製作用盛り付け樹脂



生活・健康産 業関連分野

売上高: 325億1千5百万円(前年同期比2.4%減)
営業利益: 14億9千8百万円(前年同期比24.1%減)

生活産業関連分野は、液体洗剤用界面活性剤の売り上げが横ばいに推移したこと、また、ヘアケア製品用界面活性剤の価格競争が激化したことなどにより、売り上げは低調となりました。

健康産業関連分野は、紙おむつの薄型化等へ貢献する高性能高吸水性樹脂の拡販が進みましたが、一部価格競争の激化もあり、売り上げは横ばいとなりました。

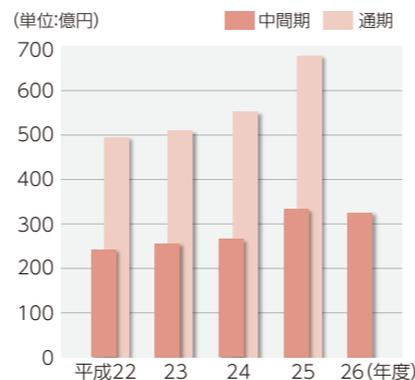


ヘアケア製品に

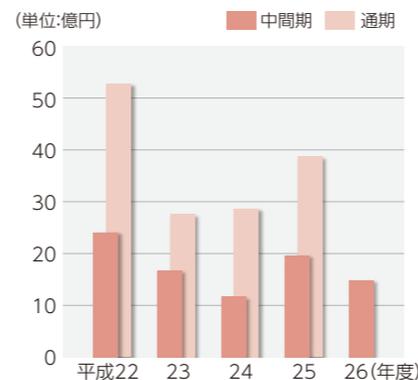


紙おむつに

売上高の推移



営業利益の推移



石油・輸送機産業関連分野

売上高: 196億8千6百万円(前年同期比8.7%増)
営業利益: 3億4千4百万円(前年同期比53.6%減)

石油・輸送機産業関連分野は、自動車シートなどに使われるポリウレタンフォーム用原料が、国内需要の堅調な推移と海外での大幅な拡販により好調に売り上げを伸ばしました。

また、潤滑油添加剤も、需要拡大が続く省燃費対応エンジンオイル用途において米国における新設備の稼働が奏功し好調に売り上げを伸ばしました。

しかし、本分野における営業利益は、原燃料価格の上昇により減少いたしました。

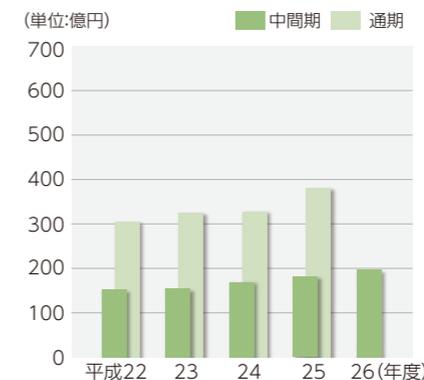


自動車シートに

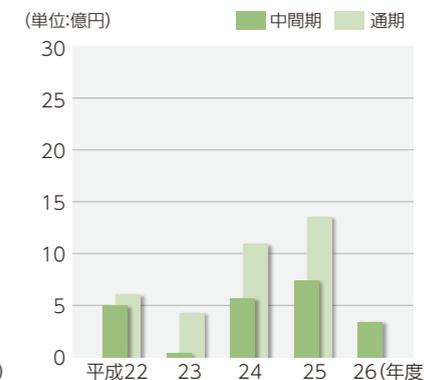


エンジンオイルに

売上高の推移



営業利益の推移



プラスチック・繊維産業関連分野

売上高: 107億5千7百万円(前年同期比11.6%増)

営業利益: 11億5千3百万円(前年同期比1.9%増)

プラスチック産業関連分野は、塗料・コーティング用薬剤などが好調に売り上げを伸ばしました。また、電子部品搬送トレーなどに使用される永久帯電防止剤も海外を中心に拡販が進み、売り上げが大幅に増加しました。

繊維産業関連分野は、ガラス繊維用薬剤の需要低迷が続く中、国内外ユーザーへの拡販に努めたこと、炭素繊維用薬剤の需要が海外を中心に増加したこと、自動車エアバッグ糸やタイヤコード糸などの製造時に用いられる繊維用薬剤が好調に推移したことにより、順調に売り上げを伸ばしました。

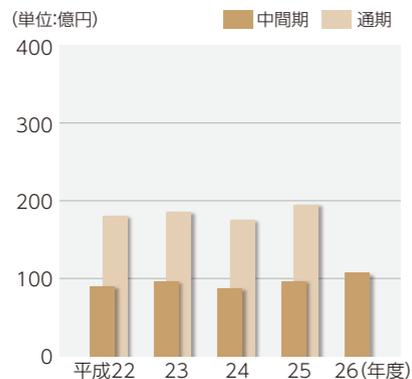


塗料に

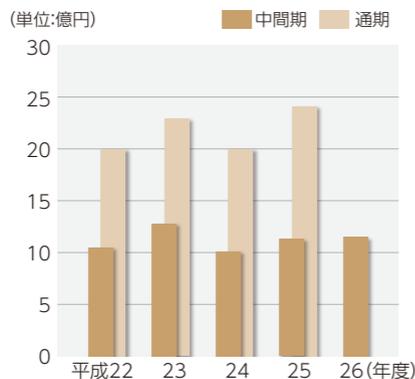


炭素繊維の製造に

売上高の推移



営業利益の推移



情報・電気電子 産業関連分野

売上高: 99億3千6百万円(前年同期比4.2%減)

営業利益: 4億7百万円(前年同期比23.0%増)

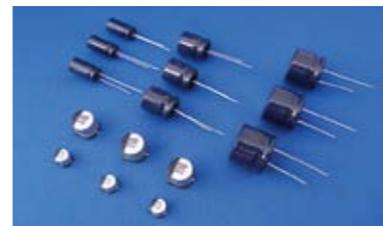
情報産業関連分野は、重合トナー中間体ポリエステルビーズの一時的な需要減、粉碎トナー用バインダーが海外での生産を縮小したことにより、低調な売り上げとなりました。

電気電子産業関連分野は、アルミ電解コンデンサ用電解液の需要が復調したことやフラットパネルディスプレイ用樹脂の上市が順調に進んだことに加え、電子材料用粘着剤の需要が増加したことなどにより、売り上げを大幅に伸ばしました。

本分野における営業利益は、商品構成の良化もあり増加いたしました。

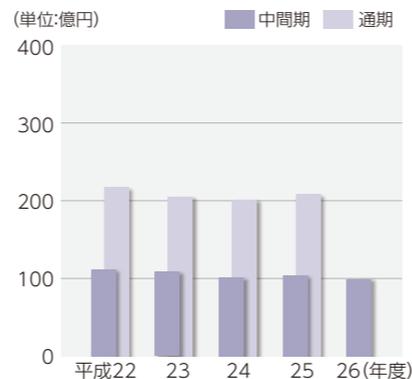


コピー機のトナーに

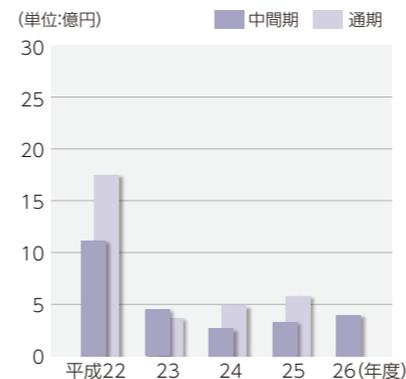


アルミ電解コンデンサに

売上高の推移



営業利益の推移



環境・住設産業関連分野他

売上高: 94億2千1百万円(前年同期比7.1%増)

営業利益: ▲3百万円(前年同期は▲7千3百万円)

環境産業関連分野は、主力の高分子凝集剤が市況悪化により低調な売り上げとなりました。

住設産業関連分野は、建築シーラント用原料や家具・断熱材などに用いられるポリウレタンフォーム用原料の需要が好調に推移し、売り上げが大幅に増加しました。

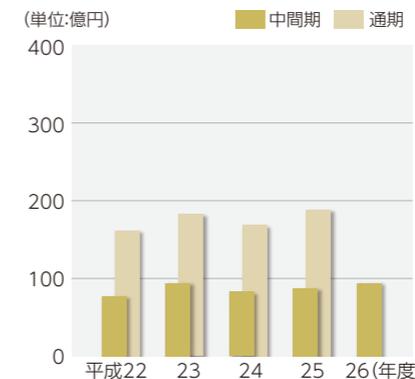


廃水の微粒子除去に

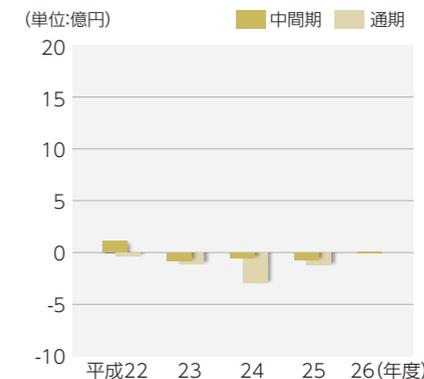


ソファーに

売上高の推移



営業利益の推移



第2四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	前期末 (平成26年3月31日現在)	当第2四半期末 (平成26年9月30日現在)	増減金額
資産の部			
流動資産	81,232	82,626	1,393
現金及び預金	15,476	15,914	437
受取手形及び売掛金	43,626	43,812	185
たな卸資産	20,171	20,330	158
その他	1,957	2,569	612
固定資産	85,296	84,559	△737
有形固定資産	56,076	54,179	△1,897
建物及び構築物	16,705	16,421	△284
機械装置及び運搬具	27,533	25,594	△1,938
建設仮勘定	1,468	1,967	498
その他	10,368	10,195	△172
無形固定資産	2,603	2,431	△171
投資その他の資産	26,617	27,948	1,331
投資有価証券	25,005	26,313	1,308
その他	1,611	1,634	23
資産合計	166,529	167,185	655

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てております。

ポイント

有形固定資産の減少(△1,897百万円)

設備投資による増加額(3,343百万円)ならびに減価償却(△4,607百万円)などによるものです。主な設備投資は三大雅精細化学品(南通)有限公司の高吸水性樹脂製造設備(総投資額5,400百万円のうち、当第2四半期における実施額は592百万円)などです。

投資有価証券の増加(1,308百万円)

株価上昇による時価評価額の増加(1,333百万円)などによるものです。

科 目	前期末 (平成26年3月31日現在)	当第2四半期末 (平成26年9月30日現在)	増減金額
負債の部			
流動負債	53,890	52,665	△1,224
支払手形及び買掛金	28,322	29,272	949
短期借入金	9,868	8,735	△1,132
1年内返済予定長期借入金	5,871	5,861	△9
その他	9,828	8,796	△1,032
固定負債	8,732	8,796	63
長期借入金	3,017	3,572	555
退職給付に係る負債	1,999	963	△1,035
その他	3,715	4,259	544
負債合計	62,622	61,461	△1,160
純資産の部			
株主資本	89,943	91,757	1,814
資本金	13,051	13,051	—
資本剰余金	12,194	12,194	—
利益剰余金	70,412	72,229	1,816
自己株式	△5,714	△5,716	△2
その他の包括利益累計額	9,217	9,335	118
少数株主持分	4,746	4,630	△115
純資産合計	103,907	105,724	1,816
負債及び純資産合計	166,529	167,185	655

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てております。

退職給付に係る負債の減少(△1,035百万円)

会計基準改正による影響額(△566百万円)および企業年金拠出による減少(△817百万円)などによるものです。

自己資本比率の上昇

利益剰余金の増加などにより、自己資本比率が1.0ポイント向上し、60.5%となりました。

第2四半期(累計)連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	前第2四半期 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	増減金額
売上高	80,236	82,317	2,081
売上原価	66,677	68,770	2,093
売上総利益	13,558	13,546	△12
販売費及び一般管理費	9,453	10,146	693
営業利益	4,105	3,400	△705
営業外収益	1,284	894	△390
営業外費用	336	461	125
経常利益	5,054	3,834	△1,220
特別利益	32	18	△13
特別損失	299	331	31
税金等調整前第2四半期純利益	4,786	3,520	△1,265
法人税、住民税及び事業税	1,404	947	△457
少数株主損益調整前第2四半期純利益	3,382	2,573	△808
少数株主利益	449	296	△153
第2四半期純利益	2,932	2,277	△655

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てております。

ポイント 損益の状況

自動車関連製品の拡販が進んだことなどにより、前年同期比で増収となりました。利益面では、原燃料価格が前年同期比高値となったことなどにより、営業利益・経常利益・純利益とも減益となりました。

第2四半期(累計)連結株主資本等変動計算書(自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)

(単位:百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額				少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	13,051	12,194	70,412	△5,714	89,943	8,099	1,310	△191	9,217	4,746	103,907
会計方針の変更による累積的影響額			366		366						366
会計方針の変更を反映した当期首残高	13,051	12,194	70,778	△5,714	90,309	8,099	1,310	△191	9,217	4,746	104,273
当第2四半期中の変動額											
剰余金の配当			△827		△827						△827
第2四半期純利益			2,277		2,277						2,277
自己株式の取得				△2	△2						△2
株主資本以外の項目の当第2四半期中の変動額(純額)						890	△817	45	118	△115	2
当第2四半期中の変動額合計	—	—	1,450	△2	1,448	890	△817	45	118	△115	1,450
当第2四半期末残高	13,051	12,194	72,229	△5,716	91,757	8,989	492	△146	9,335	4,630	105,724

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てております。

第2四半期(累計)連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	前第2四半期 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,795	5,775
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,772	△3,775
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,017	△1,259
現金及び現金同等物に係る換算差額	310	△303
現金及び現金同等物の増加額	1,315	437
現金及び現金同等物の期首残高	10,164	15,476
現金及び現金同等物の第2四半期末残高	11,480	15,914

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てております。

ポイント

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前第2四半期純利益が3,520百万円(前年同期比△1,265百万円)となったことなどにより、前年同期比△2,019百万円の、5,775百万円となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、設備資金の支払い(△3,800百万円)などにより、△3,775百万円となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の返済(△239百万円)や配当金の支払い(△827百万円)などにより、△1,259百万円となりました。

TOPICS 1 中国で潤滑油向け 粘度指数向上剤を生産

当社は、中国の関連会社である三洋化成精細化学品(南通)有限公司に、潤滑油向け粘度指数向上剤『アクループ』シリーズの製造設備の新設を決定いたしました。新製造設備は年産5,000トン規模で、2015年7月に稼働予定です。



三洋化成精細化学品(南通)有限公司

『アクループ』シリーズは、変速機油やエンジンオイルなどの潤滑油の温度による粘度変化を抑え、粘度を適正な範囲に保つ働きをする添加剤です。

京都工場と鹿島工場に合わせて年産5万トン、海外では2013年2月に米国の関係会社、サンヨーケミカル・アンド・レジンスLLCで新設した年産4,000トンの設備を稼働させており、今回の増強で当社グループにおける粘度指数向上剤の生産能力は年産5万9,000トンとなる予定です。

近年、自動車業界では市場の拡大に加え省燃費ニーズが高まっています。当社の粘度指数向上剤は、変速機油向けの需要増に加え、燃費向上効果が注目されてエンジンオイル向けでも採用が拡大しています。今後も世界的に省燃費対応の需要は拡大していくことが予想されます。当社は『アクループ』シリーズの更なる高性能化に注力するとともに、設備の新設・増設も長期的視野に入れビジネスの拡大を図っていきます。

TOPICS 2 難燃性向上に貢献する 断熱材用硬質ポリウレタンフォーム原料を開発

当社は、強度や断熱性などのフォーム物性を低下させずに難燃性を向上させる断熱材用硬質ポリウレタンフォーム原料『ノンフレポール』を開発しました。

硬質ポリウレタンフォームは高い断熱性を有することから、住宅用の断熱材などに用いられますが、住宅用断熱材は建築基準法により高い難燃性を求められます。ポリウレタンフォームの製造にはポリオールという原料が用いられており、住宅用断熱材用途では、中でも難燃性を有する芳香族エステルポリオールが主に使用されています。しかし、難燃性基準を満たすにはさらに難燃剤を大量に添加する必要があり、この大量の難燃剤添加は強度等のフォーム物性の低下を招くという課題がありました。

これらの課題を解決するため、当社は強度や断熱性な

どのフォーム物性を低下させることなく、高い難燃性を付与することができる硬質ポリウレタンフォーム用原料『ノンフレポール』を開発いたしました。これにより難燃剤の使用量を大きく減らすことができます。

今後は住宅用断熱材を中心に拡販するとともに、冷凍ショーケースや自動販売機、車両用など住宅用断熱材以外の分野にも応用展開を図り、断熱材の難燃性向上に貢献していきます。



住宅の断熱材に

「もっときれいに」「もっと安全に」「もっと地球にやさしく」…社会が進歩し産業が発展してきたのは、「もっと」を願う人々の気持ちがあったから。三洋化成は、この「もっと…」をかなえるパフォーマンス・ケミカルズをお届けしています。今回は、『繊維』の分野で活躍している製品を紹介します。

繊維製造 工程用油剤 『サンオイル』シリーズ

繊維製造工程用油剤とは？

「繊維」は、綿や絹などの「天然繊維」と、化学反応により作られる「化学繊維」の二つに大別できます。化学繊維の中でも石油原料から作られる「合成繊維」は、衣料用途から産業資材用途まで広く使用されています。しかし、合成繊維は製造・加工時に摩擦が大きくて切れやすい、帯電してばらけやすいなどの問題が起こる場合があります。



これらの合成繊維の問題を抑え、製造・加工を円滑に進めるために用いられるのが繊維製造工程用油剤です。

三洋化成の繊維製造工程用油剤 『サンオイル』シリーズ

合成繊維の使用目的によって製造・加工の工程は異なり、求められる繊維製造工程用油剤の性能も変わってきます。当社は、様々な工程に最適な性能を研究し、繊維製造工程用油剤『サンオイル』シリーズを提供しています。『サンオイル』シリーズは様々な工程に合わせた幅広いラインアップがあり、様々な繊維の製造に貢献しています。

命を守る重要な部品づくりに貢献

『サンオイル』シリーズは自動車のシートベルトやエアバッグ、タイヤコードなどに用いられる繊維の製造工程

に使われています。これらの命を守る重要な部分を担う繊維は、高い強度と品質が求められます。高い強度を出すためには、繊維を高温で長く引き伸ばす工程が必要となりますが、この厳しい工程でも繊維の毛羽立ちや糸切れを防ぐため、耐熱性と潤滑性を有した製造工程用油剤が求められます。特に、エアバッグ用繊維の製造工程用油剤は糸切れの原因となる毛羽立ちを防ぐために高い潤滑性が求められます。また、シートベルト用繊維の製造工程用油剤は潤滑性に加え、より高温下での耐熱性が求められます。このような多様なニーズに対しても、当社は最適な製造工程用油剤を開発し、安全性の向上に寄与しています。

自動車市場は今後も世界的に拡大が見込まれ、安全性への意識も高まっています。利用者の安全を支える『サンオイル』シリーズの更なる活躍が期待されます。

当社は、今後も積み上げてきた技術を活かして様々な工程で使用できる繊維製造工程用油剤を開発し、社会の「もっと…」に添えていきます。



》》》 会社概要

概況 (平成26年9月30日現在)

創 立 昭和24年11月1日
資 本 金 13,051,179,427円
従 業 員 数 1,295名(連結 1,964名)

会計監査人 (平成26年9月30日現在)

新日本有限責任監査法人

事業所 (平成26年9月30日現在)

本社[京都市東山区]
東京支社[東京都中央区]・大阪支社[大阪市中央区]
営業所:東京[東京都中央区]・大阪[大阪市中央区]・
北陸[富山市]・中国[広島市南区]・西日本
研究所:本社研究所[京都市東山区]・桂研究所
工場:名古屋[愛知県東海市]・衣浦[愛知県半田市]・
名古屋[名古屋市中村区]・
[福岡市中央区]
[京都市西京区]
鹿島[茨城県神栖市]・京都[京都市東山区]

三洋化成グループの状況 (平成26年9月30日 現在)

■ 国内会社 ■ 海外会社

〈連結子会社〉

生活・健康産業関連分野

- SDPグローバル株式会社
- 三大雅精細化学品(南通)有限公司[中国・江蘇省]

石油・輸送機産業関連分野

- サンヨーケミカル・テキサス・インダストリーズLLC [米国・テキサス州]

複数分野

- サンノブコ株式会社
- サンケミカル株式会社
- サンアプロ株式会社
- サンヨーカセイ(タイランド)リミテッド [タイ・バンコク市]
- サンナム・コーポレーション [米国・ペンシルベニア州]
- サンヨーケミカル・アンド・レジンズLLC [米国・ペンシルベニア州]
- 三洋化成(上海)貿易有限公司[中国・上海市]
- 三洋化成精細化学品(南通)有限公司 [中国・江蘇省]

その他

- [物流]
- 三洋運輸株式会社

〈持分法適用会社〉

プラスチック・繊維産業関連分野

- 株式会社サン・ベトロケミカル
- サンライズ・ケミカルLLC [米国・テキサス州]

その他

- [物流]
- 名古屋三洋倉庫株式会社
- 塩浜ケミカル倉庫株式会社
- [サービス]
- 株式会社サンリビング

〈その他の子会社・関連会社(注)〉

- 聖大諾象国際貿易(上海)有限公司[中国・上海市]
- 韓国三洋化成株式会社[韓国・ソウル市]
- サンノブコ(上海)貿易有限公司[中国・上海市]
- 台湾三洋化成股份有限公司[台湾・台北市]
- プロドウス キミコス サンヨーカセイ・ド・ブラジル [ブラジル・サンパウロ市]
- 韓国サンノブコ株式会社[韓国・ソウル市]

(注) 分野別には区分していません。

》》》 株式の概況

株式総数および株主数 (平成26年9月30日現在)

発行可能株式総数 257,956,000株 株主数 7,371名
発行済株式総数 117,673,760株

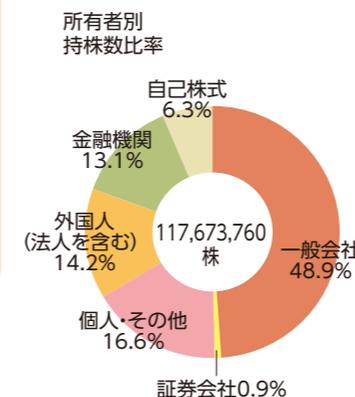
大株主 (平成26年9月30日現在)

株主名	株式数(千株)	持株比率(%)
豊田通商株式会社	21,431	19.4
東レ株式会社	19,133	17.4
株式会社日本触媒	5,529	5.0
JXホールディングス株式会社	5,306	4.8
NORTHERN TRUST CO.(AVFC) RE-SSD00	3,448	3.1
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,022	2.7
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,761	2.5
三洋化成従業員持株会	2,731	2.5
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505223	1,925	1.7
ノーザントラストカンパニー エイブイエフシー リユーエス タックス エグゼンプテッド ペンション ファンズ	1,774	1.6

(注) 1.上記のほかに、自己株式7,405千株があります。
2.持株比率は、発行済株式総数から自己株式を控除して算出しております。

株主構成

(平成26年9月30日現在)



株価・売買高の推移



(注) 1.株価・売買高は東京証券取引所によるもの。
2.平成23年4月～平成25年9月の売買高は月平均。

役員 (平成26年9月30日現在)

取締役 取締役会議長 上野 観
代表取締役社長 兼 執行役員社長 安藤 孝夫
取締役 兼 専務執行役員 矢野 達司 営業第二部門担当兼国際事業推進本部長
取締役 兼 専務執行役員 吉野 隆 研究部門担当兼生産技術本部担当
取締役 兼 専務執行役員 堀井 啓右 生産部門担当兼生産本部長
取締役 兼 執行役員 鳴瀧 英也 営業第一部門担当兼生活・繊維本部長
取締役 兼 執行役員 前田 浩平 事業研究本部長兼本社研究所長
取締役 兼 執行役員 小寺 昭芳 企業倫理担当兼間接部門担当
監査役(常勤) 森 良幸
監査役(常勤) 苅坂 剛
監査役 清水 順三
監査役 中野 治雄
専務執行役員 和多田 修 営業業務本部長兼分社グループ担当兼東京支社長
執行役員 鶴田 博之 石油・環境本部長
執行役員 吉田 彰二 輸送機本部長
執行役員 武田 栄明 生産技術本部長
執行役員 木村 昌史 樹脂・色材本部長
執行役員 田中 敬次 SDPグローバル株式会社取締役
執行役員 太田 篤志 人事本部長
執行役員 下南 裕之 SDPグローバル株式会社代表取締役社長
執行役員 山本 真也 事務本部長
執行役員 樋口 章憲 サンノブコ株式会社代表取締役社長

(注) 1.取締役 上野 観氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
2.監査役 森 良幸氏、清水 順三氏、中野 治雄氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
3.取締役 上野 観氏は、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、届け出ております。

株主メモ

事業年度/毎年4月1日から翌年3月31日まで 期末配当基準日/3月31日

定時株主総会/毎年6月 中間配当基準日/9月30日

株主名簿管理人/三井住友信託銀行株式会社

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

(電話照会先 郵便物送付先)

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号

電話0120-782-031(フリーダイヤル)

取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。

公告掲載/当社ホームページ <http://www.sanyo-chemical.co.jp/>

上場証券取引所/東京証券取引所市場第一部(コード番号 4471)

住所変更、配当金の受取方法の指定、単元未満株式の買取・買増等のお申し出先について

株主様が口座を開設されている証券会社にお申し出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

配当金計算書について

配当金支払いの際送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社等にご確認をお願いします。

なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主様につきましては、配当金支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。確定申告をなされる株主様は、大切に保管ください。

三洋化成工業株式会社

本社 / 〒605-0995 京都市東山区一橋野本町11-1

TEL:075-541-0255(総務ダイヤルイン)

東京支社・東京営業所 / 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町1-5-6 第10中央ビル

TEL:03-5200-3400(総務ダイヤルイン)

大阪支社・大阪営業所 / 〒541-0053 大阪市中央区本町1-8-12 オーク堺筋本町ビル10階

TEL:06-6267-3410(代表)

ホームページアドレス <http://www.sanyo-chemical.co.jp/>



レスポンスフルケア

当社は環境と安全の確保を経営の優先的重要課題にしています。



もりたろう

当社は、公益社団法人 京都モデルフォレスト協会の森づくり活動の趣旨に賛同し、京都市和東町湯船地区の森林において、森林利用保全活動(「三洋化成の森」づくり活動)を行っています。